

序

本郷真紹先生には、二〇二三年三月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生のこれまでの御功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただくこととしました。

本郷先生は、大阪市出身で、一九八一年三月に京都大学文学部史学科国史学専攻をご卒業後、一九八二年四月に同大学の大学院文学研究科国史学専攻博士課程に入学され、一九八七年三月に単位取得満期退学されました。二〇〇四年四月に京都大学より博士号が授与されています。一九九二年に富山大学人文学部に助教として着任され、一九九六年四月に立命館大学文学部の助教に、二〇〇〇年四月に同教授とられました。以来、日本史学専攻の日本古代史と宗教史の研究において中心的な役割を担っていらっしゃいました。この分野で先生のご指導のもと、博士号を授与された方々も多数いらっしゃいます。

先生のご専門は律令国家と宗教です。それらについての研究業績は、単著のみならず、共著・雑誌論文多数で、別紙の通りです。また日本史研究会の研究委員や編集委員、仏教史学会の評議員をお務めになられています。ご講演の内容の質の高さや面白さそして説得力のある話術により、本学社会連携課が開講している立命館大阪梅田キャンパスでの講座や「学びのプラットフォーム I」での講演はいつも人気が高いときいています。残念ながらコロナ禍では開催されない年もあったのですが、地方での父母懇談会やオープンキャンパスでも先生のご講演はたいへん人気が高いです。このように本郷先生には日本史学専攻のみならず文学部そして大学全体にも大きくご貢献いただいています。

本郷先生には大学行政においても大きくご貢献いただいています。本学着任後まもなく担われたアドミッションズ・オフィス室長に始まり、教学部副部长、そして学校法人立命館副総長、その後は国際連携室長、理事補佐と数々の全学役職をお務めになられています。私が初めて本郷先生に直接お話ししたのも、二〇年ほど前に入試に関連した案件についてで、先生が入試関連の全学役職を担っていらっしゃる時でした。文科省関係を含む学外委員も数多く務められており、学園にとっては欠かせない人材です。

ご専門の領域から意外に思われるかもしれませんが、本郷先生は大学の国際化にも貢献されています。私が国際部副部长を務めている時にロンドン大学 SOAS やマンチェスター大学の代表者と協議することがあったのですが、これらの英国の一流大学との交流協定のきっかけをつくられたのは本郷先生だったそうです。以後、SOAS の学生が本学文学研究科の博士課程後期課程に入学したり、マンチェスター大学との交換留学が実現し、人気の高い留学先となっています。また中国の清華大学とのご縁もおもちで、昨年

度はオンラインで約三〇〇名を対象に講演されたとうかがっています。参加者があまりにも多かったので、ZOOMが一度ダウンしたそうです。

私個人も学部長としてぜひぶん助けていただきました。学部と学園側と考え方にズレがあるのはよくあることなのでしょうが、間に入る学部長が判断に迷うことが多々あります。そのような時にご助言いただいたことが何度かあります。特にコロナ禍、大学そして社会が大きく変わっていく今日、例えば学習指導要領の改訂による入試改革について、会議で指摘いただいたり、個別にお話いただいたりしました。これらのご助言について深く感謝しております。

これまで教育・研究で活躍され、また数多くの優秀な教育者・研究者を育成されてきた本郷真紹先生は、二〇二三年四月からは特別任命教授として、引き続き教鞭をとり、かつ理事補佐を務めてくださることになっています。今後とも、立命館大学、文学部・文学研究科へのご鞭撻を賜うことができれば幸いです。

二〇二三年二月

立命館大学文学部長

中 川 優 子